

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県社会福祉士会

## ②施設・事業所情報

名称：大庭保育園	種別：保育所
代表者氏名：岡田 栄子	定員（利用人数）： 125名（131）
所在地：神奈川県藤沢市遠藤732番地-9	
TEL： 0466-87-1795	ホームページ <a href="https://oba540.amebaownd.com">https://oba540.amebaownd.com</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 1979（昭和54）年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 めぐみ福祉会	
職員数	常勤職員： 28名 非常勤職員 9名
専門職員	施設長 1名 内科嘱託医 1名
	保育士 28名 歯科嘱託医 1名
	栄養士 1名
	調理員 4名
施設・設備の概要	保育室 7室 事務室 1室 職員休憩室 1室
	ホール 1室 医務室 1室 園庭

## ③理念・基本方針

## 保育の方針と目標

明るく元気な子ども～心と体を育てる

- ・健康な体を持つ子ども —— 健康を維持するための基本的な生活習慣を養う
- ・皆と仲良く遊べる子ども —— 社会性を育てる
- ・自主積極性のある子ども —— 自立心を育てる
- ・ものごとに素直な感動を持てる子ども —— 感性を育てる
- ・おもいやりのある子ども —— 優しい心を育てる保育目標

## ④施設・事業所の特徴的な取組

JR東海道線辻堂駅又は小田急線等の湘南台駅よりバス20分弱、滝の沢バス停から徒歩5分の住宅地にある。1971（昭和46）年から藤沢市が開発を始めた湘南ライフタウンに位置し、近くには小規模な公園をはじめ城跡公園や親水公園など、複数の公園や緑地、開発前からあった畑などが点在している。また公立小中学校や高校もいくつも集まっている。定員は125名だが、調査実施時点での内訳は0歳児が12名、1歳児20名、2歳児24名、3歳児26名、4歳児25名、5歳児24名の計131名で、28名の保育士も含め37名の職員により運営されている。延長保育も含め、平日は午前7時から午後7時まで、土曜日は7時30分から午後5時まで二階建ての建物で保育している。障がい児保育は実施しているが、一時保育、病後児保育、休日保育は実施していない。保育目標に「明るく元気な子ども～心と体を育てる」を掲げている。日々の生活では恵まれた自然環境を活かし、できるだけ戸外での遊びを主体にして保育を行っている。また、「栽培や畑活動を通じて自然との触れ合いを楽しむ」「幼児は縦割り保育を通じて人との触れ合いを楽しむ」「乳児は人間関係の安定を考えての保育」に努めている。

## ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年 6月 10日（契約日） ～
--------	---------------------

	2020年 3月 16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（平成26年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1. 保育士の連携によるチーム保育

子ども一人ひとりを園全体で保育するとの考えの下、全保育士が情報を共有し、子どもへの声掛けや保護者に直接子どもの様子について伝えるよう心がけている。特に、経験豊かな多くの職員を中心に基準以上の職員を配置し、一人ひとりの発達状況に応じたきめの細かい保育が行われている。

2. 具体的で細かな記録

保護者からの申し送りも含め登園時の様子や、降園時での保護者への伝達内容などを、クラス毎の「登園連絡表」に記録している。特に子どもの様子については、保育士の声かけなども含め具体的に「保育日誌」や子ども毎の「個人票」に記録している。また、実施記録と振り返りを次月の計画につなげている。

3. 自己評価による質の向上

年度末に園独自の「保育園自己評価」を用いてクラス毎に評価を行い、職員会議で話し合っている。また、保育士が「ふりかえりシート」を用いて年初に目標を立て、年3回108項目について自身の業務を振り返り、年度末に施設長との個別面談を行い、保育の質向上につなげている。

◇改善を求められる点

1. 中・長期計画と単年度事業計画の策定

保育の課題や地域ニーズに基づいた保育の実施等の中・長期計画の策定が求められる。その上で、年度方針や保育課程等からなる事業計画を作成すると共に、資料を工夫するなど保護者への説明が求められる。

2. マニュアルや手順書の工夫

勤続年数の長い保育士が多く、口頭での引継ぎ等で円滑に業務が遂行されている。他方、根拠となるマニュアル類が分散しており、業務の一連の流れを示した手順書が不備である。保育サービスの質の保証との視点からも整備が望まれる。

3. 苦情解決の仕組み策定

保護者等からの声を適切に受け止める為に、「苦情」として受付から解決までの対応手順を策定し、第三者委員や市の担当窓口等にも申し出る事ができる等の説明が求められる。

4. 地域の子育て支援

園独自の地域交流事業として「皆で話そう子どもの健康」や給食体験などの実績がある。地域の潜在的なニーズの掘り起こしと、保育の経験を活かした子育て家庭への支援が期待される。

5. ワークライフバランスへの配慮

保育活動の記録や反省など、手書きによる書類作成が多い。長年の実績に裏打ちされた特徴ではあるが、子ども一人ひとりの保育に資する必要性などの確認を通じ、ワークライフバランスに配慮した負担軽減が求められる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

- ・職員全体で勉強する時間が持てたことは良かった。
- ・地域・社会から今、求められているものは何かを考え行動に移していく。
- ・課題としてあがった内容などは、次の職員研修で職員みんなで話し合いまとめていく方向。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり